

テーマ：輸液完了を知らせるポンプ

■ 背景

- 通常輸液は点滴チューブを通して患者さんへ投与され、投与が終了すると、アラームがなって、それを聴いた患者さんや家族がナースコールなどでナースに輸液が終了したことを知らせる。
- しかし、聴覚や認知機能の低い患者さんの場合、あるいは夜間患者が眠っている/意識のない状態の場合は患者さんは輸液終了を知らせることが出来ない。また、看護師も輸液終了予定時間がある程度把握していても、他の業務で忘れてしまう可能性が有る。
- 引き続き薬剤を投与しなければならない場合は、その処置開始が遅れてしまう恐れがある。



<出典：イラストAC>

■ 現状の輸液ポンプ

機能アイデア例

点滴が終わると担当看護師のPHS等に知らせる、あるいはナースステーションのモニターへ表示されるなど



連絡を受けた担当看護師が点滴交換などの処置に向かう



- 遠隔管理システムが複数社から市販されているが、高価である
- 輸液投与を受けている患者数が多いため、病院へ導入しやすい価格が望まれる

■ 市場性

1日平均入院患者数は滋賀医科大学附属病院で468人(2021年度)、全国では121万人(2020年度)に上る(厚生労働省、<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/20/dl/kanjya-01.pdf>)。仮に半数の患者で点滴が施されると仮定しても、全国では多くの患者が日々点滴治療を受けていると推定される。

数社の医療機器メーカーから遠隔監視システムが市販されているが、価格競争力の高い製品が開発されると大きな売り上げに結び付くと予想される。

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>